

第1回江別市行政審議会 議事録

日 時：令和4年8月29日（月） 午後6時～午後8時

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：明神委員、新田委員、井上委員、竹田委員、内海委員、岡委員、春日委員、鎌田委員、齋藤委員、佐藤委員、清水委員、成田委員、西村委員、星委員、町村委員、山崎委員、猪狩委員、小野秀司委員、小野豊勝委員、本山委員 計20名

事務局：三好市長、川上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口参事（総合計画・総合戦略担当）、北島主査（総合計画・総合戦略担当）、眞鍋主査（総合計画・総合戦略担当）

傍聴者：2名

1 開会

（事務局）

定刻となりましたので、第1回江別市行政審議会を開会いたします。

本日の進行であります。次第6にございます、諮問の議事が終了するまで、私が進行してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日、齋藤委員から、少し遅れる旨のご連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。

また、皆様にお知らせいたしますが、本日の審議会に傍聴希望者がいらっしゃいます。当審議会は、江別市市民参加条例に基づきまして、公開の対象となりますことから、発言権はなく、傍聴のみということで入室を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

（事務局）

ありがとうございます。それでは傍聴を許可することといたします。傍聴者の入室をお願いいたします。

（傍聴者入室）

それでは、引き続きまして、審議会における、各委員の発言内容につきましては、江別市市民参加条例に基づいて作成した議事録を、事前に委員の皆様にご確認いただいた上で、公開することとしたいと思いますので、その旨お含みおきをお願いいたします。

2 委嘱状交付

（事務局）

それでは次に、次第2にございますが、委員の皆様にご委嘱状の交付を行います。私から一人ずつ名前をお呼びいたしますので、その場でご起立いただき、市長から委嘱状をお受け取りください。

なお、感染対策の一環といたしまして、委嘱状の読み上げは省略いたしますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

(委嘱状の交付)

3 挨拶

(事務局)

次に、次第3の挨拶でございますが、市長から、皆様にご挨拶申し上げます。

(市長)

市長の三好でございます。第1回目の江別市行政審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

このたび、新たな総合計画をご審議いただくため、行政審議会を設置いたしました。そして、ただいま委嘱状を皆様にお渡しをさせていただきました。皆様には、快くお引き受けいただきましたこと、心から感謝申し上げます。また、皆様には日ごろから、江別の市政運営に大変深いご理解をいただいております。その上でさまざまな形、立場からご支援ご協力を賜っておりますことを、重ねてお礼申し上げます。

当市におきましても、新型コロナウイルスの感染者数は、少し高止まりの状況でございます。心配しているところでございますが、そのような中での審議会の開催となっております。

皆様方には、ご心労をおかけしての審議ということになりますけれども、感染対策を徹底して実施したいと思っておりますので、どうかご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

そのような意味では、今ほど委嘱状をお渡しする際には、お名前を直接、申し上げないでお渡しをさせていただきました。ご了承いただけるよう、お願い申し上げます。

さて、本審議会でございますが、現在策定を進めております、第7次江別市総合計画の審議をいただくため、学識経験者、経済、福祉、地域活動団体などの有識者、さらには、市民公募の皆様方から成る審議会でございます。今後の10年間の進むべき方向、方針について、専門的立場から、また、総合的な見地からご意見をいただくために設置した審議会でございます。

今回、この10年間を振り返るといことになりますと、社会の仕組みが大きく変わってきていると思います。団塊の世代が後期高齢者になり、少子高齢化が一段と進むという状況が、依然として進んでございます。さらには、通信で申し上げますと、スマートフォンが発達しまして、あらゆるものがインターネットでつながり、キャッシュレス化も進み、さらには、医療や福祉もロボット化という形になって、大きく変わってまいりました。特に今、これまでの10年間を振り返りますと、通信が非常に大きく変わってまいりました。携帯電話は、通話するだけでしたが、メールを送信できるようになり、動画や写真も送れるようになり、キャッシュレス決済にも使われるようになりました。そして今は、オンラインで、さまざまな会議等ができる状況になってまいりました。まさしく、通信によって距離が変わるとい状況になっているのではないかと考えております。

それでは、今後の10年間がどういう形になるかということでございますけれども、予想もつかないことが数多くあろうと思いますが、少なくとも、デジタル化は一段と進むものと考えてございます。さらにはAIの活用もあり、ライフスタイルが大きく変わってくるのではないかと考えてございます。

そういう意味では、今後も世界は、デジタル化やその対応が進むと思いますが、もう一つは環境問題、これは異常気象の問題等から、カーボンニュートラルの問題もありますし、そういう大きな社会の中での動きを、市として、どう捉えていくのかということが今、問われているのではないかと考えてございます。

さらには、私どものほうで申し上げますと、行政のデジタル化も一段と進むことが約束されてございます。そういう対応も、我々はしていかなければならないと考えてございます。

新しい総合計画には、これらの社会的な大きなうねり、変革を捉えて、未来の江別市を示すことになるのではないかと考えております。先ほど申し上げた専門的な立場、または、学識経験者、そして市民の立場から、さまざまなご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

この後、市から、総合計画につきまして諮問をさせていただきます。そして、その後になりますけれども、市の人口の現状などについて説明させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、依然としまして、コロナ禍での会議、審議ということになりまして、先ほど申し上げましたとおり、皆様にはご心労をおかけすることになろうかと思いますが、今後の10年間の、市の大事な道しるべになる計画の審議でございまして、よろしくお願い申し上げます。私からの挨拶に代えさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員紹介

(事務局)

ありがとうございました。それでは続きまして、次第4の委員紹介を行いたいと思います。

本日は、第1回目の会議となりますので、委員の皆様から、一言ずつご挨拶を頂戴したいと思います。早速ではございますが、お手元の名簿の順にご挨拶をいただきたいと思います。初めに、井上委員から、お願いいたします。

(井上委員)

酪農学園大学の井上と申します。初めての参加となります。皆様にご迷惑をおかけするのではと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

(竹田委員)

北翔大学生涯スポーツ学部所属しております、竹田と申します。主に専門はスポーツ、教育関係となります。どうぞよろしくお願いいたします。

(新田委員)

札幌学院大学人文学部人間科学科の新田と申します。高齢者福祉、あるいは、老年社会学が専門で、そういった観点から、微力ながらも、この計画に尽力できればと考えております。よろしくお願いいたします。

(明神委員)

北海道情報大学の明神でございます。経営情報学部の学部長で、先端経営学科の教授を務めております。専門は、もともと制御工学ですが、この大学では、デジタルビジネスの開発において、そのモデル化と最適な制御を研究しています。その延長で、DX人材の育成、最近ではスマートシティにおいてはテクノロジーだけでなく、社会も含めた社会技術アーキテクチャを研究しております。よろしくお願いいたします。

(町村委員)

はじめまして、江別商工会議所の会頭を務めております、町村と申します。本業は、篠津で町村農場の代表をやっております。微力ながら、力になればと思っていますので、よろしく願いいたします。

(春日委員)

道央農業協同組合の春日と申します。私も本職は農業であります。農業の視点、農家の視点からご協力できるかと思えます。よろしく願いいたします。

(清水委員)

一般社団法人江別青年会議所から来ました、清水と申します。第6次江別市総合計画にも、私たちの先輩が携わらせていただきました。今、私が現役で、向こう4年残っておりますので、代表として、今回出席させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

(山崎委員)

えべつ観光協会の山崎と申します。普段は、グラフィックデザイナーとして、様々なものをデザインする仕事をしております。観光とデザインの部分でお手伝いできればと思っています。よろしく願いします。

(内海委員)

内海でございます。江別市自治会連絡協議会の会長をしております。自治会側から何か協力できることがあればと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(佐藤委員)

江別市社会福祉協議会の会長の佐藤です。豊かな福祉社会を実現していただくために、この行政審議会で、中身を十分考えていただきながら進めていきたいという希望を持っております。よろしく願いします。

(齋藤委員)

江別市PTA連合会副会長をさせていただいております、齋藤と申します。普段は普通のサラリーマンですが、子どもが6人おまして、そういう子育てをしている親の立場からも参加できるかと思えます。よろしく願いいたします。

(鎌田委員)

江別市女性団体協議会から参加させていただきました、鎌田と申します。どれほどお役に立てるか分かりませんが、精一杯務めさせていただこうと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(成田委員)

NPO法人えべつ協働ねっとわーく事務局長の成田と申します。JR野幌駅南口にある市民交流施設ぶらっと内にある市民活動センター・あいを運営しております。市民協働の立場から、お役に立てればと思えますので、よろしく願いいたします。

(西村委員)

江別市高齢者クラブ連合会の西村と申します。何かの役に立てればと思えます。よろしく願いします。

(岡委員)

子育て支援ワーカーズきらきらから参りました、岡です。市内で子育ての親子ひろばなど、

市からの委託事業として「ぽこあぽこ」という子育てひろばの受付のほか、託児ルームなどをさせてもらっています。

今、冒頭でも、デジタル化の話が多くありましたが、今日も親子ひろばに参加していて、子育てはデジタル化ではできないという声があります。私は、子育てしかあまり分かりませんが、子どもの未来のために、いろいろなところで寄り添いながら、本当に真剣に、一緒に、地域での子育てについて、子育てしやすいまちづくりについて、いろいろ皆さんと考えたいと思って参加させていただきます。よろしく願いいたします。

(星委員)

日本リサイクルネットワーク・えべつの星と申します。ごみ減量のためのフリーマーケットの開催と、江別市内の全ての小学校で環境授業を行っています。私たちの住む江別が、少しでも住みよいまちになるように、勉強させていただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

(本山委員)

酪農学園大学2年、環境共生学類の本山と申します。えべつの未来づくりミーティングへの参加を機に、今回、応募させていただきました。自分にはない考え方や視点を皆様から学び、自分の意見や考えをこの場で述べられたらと思っています。よろしく願いします。

(猪狩委員)

市民公募で参加させていただきます、猪狩と申します。出身は江別市ではないのですが、江別に来て、人生の半分以上は生活させていただいております。これから先も、江別市で少しでも力になって、皆さんが安心して生活できるような形で進められたらと思っていますので、よろしく願いいたします。

(小野豊勝委員)

小野と申します。

私は公募ということで応募しました。65歳以上の枠ということですが、私の実年齢は80歳です。ですから、ある意味、年代で言えば一番年寄りの部類の代表として会議に臨んでいきたいと思っています。いかんせん、年齢も年齢で、考えることも、こんな感じで物を見るのかと思われるかもしれませんが、皆さんからご指摘、ご注意いただき、何とか、形のある、実のある結果を出したいと思っています。よろしく願いします。

(小野秀司委員)

しんがりの小野でございます。

私は今、文京台に住んでおまして、2年前に定年退職となりました。今、67歳です。江別市には、文京台に34年暮らしております。周辺を見渡すと、江別に住みながら、職場が札幌市、千歳市という方が多いです。交流人口の一員として、そういう観点から拙い意見を申し上げることができればと考えております。よろしく願いいたします。

(事務局)

皆様、どうもありがとうございました。続きまして、この場をお借りいたしまして、事務局であります市の出席者を紹介いたします。

(川上部長)

事務局、企画政策部長の川上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

(伊藤次長)

伊藤です。よろしくお願いします。

(北島主査)

北島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(眞鍋主査)

眞鍋と申します。よろしくお願いいたします。

(事務局)

そして、私、参事の水口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 会長・副会長選出

(事務局)

それでは次に、次第5の、会長・副会長選出を議題といたします。会長及び副会長の選出でございますが、江別市行政審議会条例によりまして、会長及び副会長は、委員の皆様による互選となっております。選出に関しまして、委員の皆様からご意見やご提案はございますか。

(山崎委員)

これまでの行政審議会の会長と副会長の選出の経過を踏まえて、事務局から案をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

ただいま、山崎委員から、事務局案を提示いただきたいとのご発言がございましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(事務局)

それでは、事務局案を申し上げたいと思います。これまでの行政審議会では、正副会長は、学識経験者として委嘱をした委員にお願いをしてきた経過がございます。したがって、事務局といたしましては、今回も同様をお願いできればと考えております。

会長には、北海道情報大学の明神委員、副会長には札幌学院大学の新田委員にお引き受けいただきたいと考えております。

ただいま、事務局案を申し上げましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(事務局)

ありがとうございます。皆様からご賛同をいただきましたが、明神委員はいかがですか。

(明神委員)

ご推挙いただきありがとうございます。お受けしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。次に、新田委員いかがでしょうか。

(新田委員)

ありがとうございます。承ります。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、明神委員に会長を、新田委員に副会長をお願いしたいと存じます。恐れ入りますが、明神委員と新田委員は、会長、副会長席に、それぞれ移動をお願いいたします。

それでは、明神会長と新田副会長から、それぞれ一言ご挨拶をいただきたいと存じます。初めに、明神会長からお願いいたします。

(明神会長)

皆さん、ありがとうございます。このたび会長をお引き受けした明神でございます。

先ほど、自己紹介で、子育てや人間関係では、AIやIT化ができないところもあるという話がありました。実は、Googleがカナダでスマートシティを推進していたのですが、撤退しました。住民の心というか、気持ちに余り配慮することなく、テクノロジー主体でやったわけです。そういうことも反省材料にして、ITだけではない、社会や皆さんの気持ち、心にも配慮して、進めていければと思っています。

本年7月末に、牧島かれん前デジタル大臣が本学を訪問して、タウンミーティングを開催し、本学の研究内容などをご紹介したのですが、大臣の講話の中で、いろいろなところでデジタル田園都市構想を進めているが、一番の問題は人が動かないということでした。プロジェクトをしても参加しないとか、人材も育たず、補助金がなくなったら、活動が消えてしまって維持できないという問題があります。ですから、参加者の気持ちを大事にして皆さんが動けるようにしていく必要があると思っています。ヘルスケアについても、医療とか、行政が指示するとか、そういう仕組みをつくって、押しつけるのではなく、住民主体のコミュニティヘルスという考え方がある。自分たちの体や、家族の健康を一番よく知っているのは自分ですから、住民の気持ちや情報をしっかり受け止めて、住民主体のコミュニティが市と密に連絡をとり、ひとりひとりが動くまちにしていければと思っています。

皆さんから活発なご意見をいただいて、より良い江別を目指して、審議会を進めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。次に、新田副会長お願いいたします。

(新田副会長)

副会長を拝命させていただきました。札幌学院大学人文学部の新田と申します。よろしく申し上げます。私は、団塊ジュニアと言われる世代で、人口が多く、それ以降ずっと人口は下がり続けています。我々の世代はロスジェネレーションと言われ、大学を卒業するときにバブルが崩壊し、いろいろな構造の変化によって、第三次ベビーブームを起こせなかった世代と言われます。責任を感じる必要はないのですが、そういう世代意識がございます。ここでいろいろなことを頑張らないと、私たちの少ない子ども世代に、いろいろな問題を先送りしてしまうのではないかということに、ようやく気づき始めたというか、危機感を感じ始めている年代だと思っています。大学院に進んだのは1996年でして、1997年に介護保険法が成立して、そのあと少し空白があり、2000年の4月から介護保険制度が始まっていますが、ちょうど大学院に入って、高齢者、認知症のお年寄りのケアから研究

を始めたのですが、介護や高齢化のことなどを考え始めたころに、介護保険法で介護保険事業計画の策定が市町村に義務づけられましたので、大学院生として、東京都豊島区の介護保険事業計画の第1期策定時に、毎回傍聴させていただいて、ニーズをアセスメントして、計画を立てて、厚生労働省のいろいろな方針や通知、法令に沿って、どう地域で制度を整備していくかということ、もう30年近く前から勉強してまいりました。

こちらに来たのが、2003年4月ですが、札幌学院大学に採用させていただいて、高齢者福祉担当ということで、こちらに参りました。もう20年近くになりますけれども、2004年の12月から、江別市の介護保険事業計画の第2期の策定委員となりました。

そのあと何度か、江別市の介護保険事業計画の策定委員で、いろいろなことを教えていただいたと思っています。今回の総合計画がさらに上位の計画ということですので、経験であるとか、いろいろな思いを、江別市は本当にいいまちだと思っていますので、それを是非反映させるための仕事をさせていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

6 諮問

(事務局)

ありがとうございました。それでは、引き続きまして、次第6の諮問を行います。三好市長から明神会長に、新たな総合計画の審議をいただくための諮問書をお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

(市長から会長に諮問書を渡す。)

(事務局)

ありがとうございました。

なお、市長につきましては、この後公務が入っておりますので、大変申しわけございませんが、ここで退席をさせていただきます。

(市長退席)

(事務局)

それでは、ここからの進行につきましては、明神会長にお願いしたいと思います。明神会長、どうぞよろしくお願いいたします。

7 資料説明

(明神会長)

それでは、お手元の次第7、資料説明を議題とします。事務局から、資料の構成と、(1)についての説明をお願いします。

(1) 第7次江別市総合計画策定方針について

(事務局)

それでは、私から、資料の構成と、第7次江別市総合計画策定方針につきましてご説明申

申し上げます。本日ご説明いたします資料は、資料1から資料3までの3種類と、今後のスケジュールでございます。これらは、江別市がどのような考え方のもとに、次の総合計画を策定していくのか、また、総合計画とは何なのか、そして、江別市とはどのような特徴を持ったまちなのかについて説明し、委員の皆様方との共通の認識を持ちながら進めていきたいと考えております。

そして、次回の行政審議会では、引き続き、市が令和3年度から行ってまいりました、市民参加の取組のほか、本年5月に行いました、江別市の将来人口推計などについて、説明したいと考えております。

したがいまして、実質的にご審議いただくのは、第3回目以降を予定しておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、資料3の江別市の現状についてでございますが、こちらの資料はこれまで、市が行ってまいりました、市民参加の取組の一つであります、「えべつの未来づくりミーティング」という取組で使用した資料でございます。委員の皆様の中にも、このミーティングにご参加いただいた方がいらっしゃいますので、1度お聞きいただいた内容となりますが、ご了承いただければと存じます。

それでは、早速ですが、資料1をご覧ください。

第7次江別市総合計画策定方針であります。これは総合計画の具体的な策定作業を開始する前の昨年9月に作成したものでございまして、策定に向けた作業を行うに当たって、計画策定の趣旨をはじめ、基本的な考え方や策定手法、スケジュールなどについて示したものでございます。

それでは、資料1をご覧ください。

第7次江別市総合計画策定方針であります。これは、総合計画の具体的な策定作業を開始する前の、昨年9月に作成したものであり、策定に向けた作業を行うに当たり、計画策定の趣旨をはじめ、基本的な考え方や、策定手法・スケジュールなどについて示したものであります。

1ページをご覧ください。この策定方針の構成でございますが、計画策定の趣旨に始まり、総合計画策定に当たっての基本的な考え方、総合計画の構成と期間、最後に、策定の手法とスケジュールとしております。

順に、概要を説明してまいります。1の計画策定の趣旨では、令和5年度で終了する現行の総合計画について説明し、続いて、江別市の人口動態や、全国的な社会情勢の変化、また、令和2年以降の新型コロナウイルスの影響についても記載しており、時代の変化に対応しながら、持続可能なまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくために、「第7次江別市総合計画」を策定するとしています。

次に、2の策定に当たっての基本的な考え方ですが、(1)に、みんなにとって分かりやすい計画を掲げ、(2)では、江別市自治基本条例の基本理念に基づいて市民参画を進め、市民とともに、希望を持って創り上げていく計画としております。

次に、資料2ページになりますが、(3)では、市を取り巻く環境に的確に対応するほか、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた経済の立て直しなどが必要となることから、江別市の特性を生かし、持続可能なまちづくりを実現する計画としております。(4)では、国の地方創生の考え方にに基づき、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して、人口減少対策などに取り組んでおりますが、総合計画においても、人口減少や少子高齢化を重要な課題として掲げることが想定されることから、まちづくりと地方創生を一体的に進める計画としております。(5)では、国際社会における共通の目標であるSDGsは、国が策定した「SDGs実施指針」において、各自治体に対して、各種計画や戦略、方針の策定

などにSDGsの要素を最大限、反映することを奨励していることから、SDGsの視点を持った計画としております。

次に、3の総合計画の構成と期間でございますが、次期総合計画である「第7次江別市総合計画」は、現行計画と同様に、「えべつまちづくり未来構想」と「えべつ未来戦略」の2本柱で構成し、期間についても、現行計画と同様に、構想をおおむね10年、戦略をおおむね5年にすることといたします。なお、いずれも社会経済情勢の変化など、必要に応じて、見直しを行うことといたします。

3ページでは、ただいまご説明いたしました総合計画の構成イメージを図で示しております。

4の総合計画の策定手法・体制でございますが、市民参加の取組の手法のほか、市民への情報提供、議会報告、審議会への諮問・答申、庁内における検討体制などについて掲げており、内容は記載のとおりであります。なお、(1)から(3)までの市民参加の取組などについては、次回の行政審議会で、結果を報告する予定であります。

また、4ページをご覧いただきたいと思いますが、(8)では、総合計画の策定に当たり、構想や戦略の内容について検討する庁内検討体制を整備することとしており、江別市の全部局が連携して策定した総合計画の案を、この行政審議会にお示しして、審議いただくこととなります。

したがって、この審議会でゼロから何かを創り出すということではなく、江別市が作成して、お示しする案に対して、皆様からご意見などをいただき、いただいたご意見を踏まえて、市において、必要な変更や修正を加えていくというイメージをお持ちいただければと思います。

次に、5ページをご覧いただきたいと思いますが、総合計画の策定に向けた体系図を掲載しております。

次に、6ページの5の策定スケジュールでございますが、後ほど審議会としてのスケジュールをご説明いたしますが、全体を見通した年度ごとの取組概要を申し上げますと、既に、昨年度となる令和3年度から本年7月までには、策定方針の作成をはじめ、市民アンケート調査や、えべつの未来づくりミーティングなどの市民参加の取組のほか、市の将来人口分析を行いました。そして、これから市が作成する7次総合計画の骨子案を、この行政審議会で審議いただき、答申の内容を踏まえて、市が総合計画の案を完成させます。そして、策定の最終年度となる令和5年度では、市議会に対して第7次総合計画案を議案として提出して審査いただき、議決を経て策定を完了するという流れを予定しております。

なお、策定作業は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて柔軟に進めますが、状況の変化に応じた適切な対応をとる必要がありますことから、スケジュールに変更が生じ得ることについて記載しております。説明は、以上でございます。

(明神会長)

ありがとうございました。事務局からご説明いただきましたけれども、委員の皆様から質問などございますか。遠慮なく質問されたらいいと思いますけれども、いかがでしょうか。

私からお聞きしたいと思いますが、SDGsについては、国連での採択ということで、国を挙げていろいろなところで動きが出ていますが、全ての項目を完璧にやっていこうと思ったらなかなか大変なことだと思います。基本的な考え方の中で、SDGsの視点を持つということはどういう意味を持っているのでしょうか。

(事務局)

SDGsに関しましては、国の通知において、地方でつくる計画、戦略などについてもし

っかりと配慮するようにと書いたような記載がございます。実際に江別市、地方公共団体が行う取組というのは、基本的には、SDGsの取組に貢献しているものが非常に多いと言われておりますので、こういったものを整理しながら、しっかりとSDGsに貢献できるような総合計画の体系にしたいと考えております。

実際に、我々職員もSDGsのことを熟知しているかということ、そういうわけでもないと思っておりますので、9月下旬に、SDGsの職員研修を開催したいと思っております、そういった取組も行いながら、総合計画の策定に努めてまいりたいと考えております。

(明神会長)

それでは、そういう研修の結果も踏まえて、どういったことをどこまで取り組むかについても、何らかの方針みたいなものを出されたらいいと思っています。

それでは、資料2について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(2) 第7次江別市総合計画の策定に向けた取組について

(事務局)

第7次江別市総合計画の策定に向けた取組について、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。

ページは、上下二つに分かれておりますが、右下の数字、スライド番号により説明してまいります。

スライド番号1をご覧ください。総合計画とは、地方自治体が、総合的かつ計画的に行政運営を行っていくための将来の指針となる、江別市の最上位計画であります。

なお、平成23年には、地方分権の一環として、地方自治法が一部改正され、それまでの、議会の議決を経て総合計画を策定する旨の規定が削られたため、地方自治体に総合計画を策定する義務はなくなりました。しかし、江別市では、既に、平成21年に、江別市自治基本条例において総合計画を策定することとしているほか、今ほど申し上げた地方自治法の改正を受けて、平成25年に、総合計画の策定を議会の議決事件とする条例を制定いたしました。

したがって、江別市では、地方自治法の改正の前後で、実質的な取扱いに変更は生じておらず、総合計画を策定すること、そして、策定に当たっては、議会の議決を経ることとなります。

次に、スライド番号2をご覧ください。ここでは、江別市における総合計画の変遷を記載しており、昭和36年度からの江別市総合建設計画という名称の計画を第1次として、現在の第6次江別市総合計画に続いております。

次に、スライド番号3をご覧ください。こちらは、現行の第6次総合計画の体系であり、第6次総合計画は、10年間の基本構想部分であるえべつまちづくり未来構想と、構想の中から重点的かつ集中的に取り組むテーマを選択して掲げたえべつ未来戦略の2本柱で構成しています。

次に、スライド番号4をご覧ください。今ほどの説明をもう少し詳しく申し上げますと、第6次総合計画では、えべつまちづくり未来構想における基本理念や、将来都市像の下に、九つの「まちづくり政策」を掲げ、その中から重点的・集中的に取り組む戦略の三つを「えべつ未来戦略」としています。なお、現行の第6次総合計画については、本日、机上に配付しているファイルの中に綴っておりますので、お時間のあるときにご覧いただきたいと思います。

次に、スライド番号5をご覧ください。こちらは、先ほど、資料1でご説明申し上げた次期の総合計画である第7次総合計画の策定に当たって作成した策定方針について記載してお

り、スライド番号6まで策定方針について記載しております。

次に、スライド番号7をご覧ください。こちらは、江別市自治基本条例との関係を記載しておりますが、条例第13条第1項において、江別市は総合計画を策定することとしているほか、同条第2項において、総合計画を策定するに当たっては、多くの市民意見を反映させるため、必要な情報提供に努めるとともに、市民参加を積極的に進めることとされています。

次に、スライド番号8をご覧ください。こちらは、令和3年度の主な取組を記載しており、次のスライド番号9から、その内容について記載しております。

スライド番号9では、昨年10月に実施した市民5,000人アンケート調査を記載しており、調査結果については、次回の行政審議会でも報告する予定です。次に、スライド番号10をご覧ください。こちらは、市民参加の取組の一つであるえべつの未来づくりミーティングについて記載しております。

現行の第6次総合計画を策定する際には、40人規模のえべつ未来市民会議を設置して、江別市のまちづくりに関する意見を伺いましたが、今回は、令和2年当初から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、大人数が集まる会議の開催は困難な状況が続いていたことから、検討の結果、少人数で構成するグループを複数設定して、江別市の未来について語り合う、えべつの未来づくりミーティングを行うこととしました。なお、このミーティングには、将来の江別市を担う市の若手職員も参加することとしたところであり、スライド番号11から13は、ミーティングの実施状況を掲載しております。ミーティングのカテゴリーは、地域産業に携わる方、地域福祉に関わりの深い方、市民活動に関わりの深い方、障がいをお持ちの当事者、そして、中学生、高校生、大学生など、30グループ設定し、全31回にわたり、延べ161人の市民の皆様へ、ご意見を伺ってまいりました。なお、冒頭で申し上げましたとおり、本ミーティングには、この行政審議会委員の皆様のうち、内海委員、鎌田委員、成田委員、岡委員、星委員、本山委員、小野豊勝委員の計7人に、それぞれのグループでのミーティングにご参加いただいたところでもあります。

なお、スライド番号14から19では、ミーティングの写真を参考に掲載しております。また、ミーティングの結果については、次回、お示しすることを予定しております。

次に、スライド番号20をご覧ください。こちらは、えべつの未来づくりプロジェクトについて記載しており、アンケート調査やえべつの未来づくりミーティングのみならず、幅広い市民意見を募集するために実施した、QRコードからWEB上で回答いただく意見募集の取組です。市民アンケート調査では、5,000人を無作為抽出しましたが、18歳以上の市民を対象としたため、10代の回答は17人、20代の回答は82人であったため、この取組では、若い世代からの意見を多くいただきたいという狙いもありました。結果的には、全部で213件の意見が寄せられ、内訳として、10代と20代の意見が約6割を占めており、江別市の理想の姿として、自然環境や景観が良いまち、都市と田舎の双方の良さを感じられるまち、様々な世代が支えあうまちなど、多くの意見をいただきました。

次に、スライド番号21をご覧ください。こちらは、市の将来人口推計について記載したものであり、こちらも次回の行政審議会でも詳しく説明する予定であります。

最後に、スライド番号22をご覧ください。こちらは、資料1で説明した策定方針から抜粋したものであり、説明は割愛いたします。

資料2の説明は、以上でございます。

(明神会長)

ありがとうございました。事務局から説明いただきましたけれども、委員の皆様からご質問などございますか。

(町村委員)

スライド番号6の部分で、「みんなにとって分かりやすい計画」というのは、先ほどの資料1のほうでも触れられていたかと思うのですが、第6次総合計画のときにも、策定方針として掲げられていたテーマだったのでしょうか。

(事務局)

第6次の策定方針では、「みんなにとって分かりやすい計画」という記載はございませんでした。実は総合計画自体は、小さなお子さんからご高齢の方まで、皆さんにお目通しいただきたい、ご覧いただきたい計画として位置づけますことから、分かりやすくなければ、あまり意味がないだろうということで、まず第1に、この項目を掲げたところでございます。

(町村委員)

ありがとうございます。とても大事なポイントだと思いますけれども、第6次総合計画の成果物もそれなりに分かりやすくという部分を意識されたようなまとめ方かと思ったのですが、ここでこのように挙げられますと、また、ハードルをさらに上げられるということでしょうから、それなりにいろいろと、まとめ方について気を配られることかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(齋藤委員)

うちの妻もえべつの未来づくりミーティングに参加させていただきました。ありがとうございます。今の町村委員とも重なる部分かもしれませんが、第6次総合計画が10年間であったと思いますが、長い期間だったと思います。この間に社会のいろいろな変革もあった中で、反省までいかないと思いますが、進捗状況と結果というか、もともと市が想定していた部分と、現状がどう進んでいるのかは、この場で聞くことができるのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。現行の第6次総合計画の総括についてのご質疑かと思っておりますが、今、全部局に第6次総合計画の総括作業を依頼しているところでございまして、その総括作業が終わりましたら、行政審議会にもお示しして、課題も多くあろうかと思っておりますので、皆様にご説明しながら、第7次総合計画の骨子につなげてまいりたいと考えておりますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

(齋藤委員)

もう1点、よろしいでしょうか。第7次総合計画の中で「江別市の特性を生かしつつ、持続可能なまちづくりを実現する計画」とあります。このお話をいただいて、この資料を見させていただいた中で、僕も生まれて今までずっと江別で暮らしていますが、江別市の特性って何だろう、というところを悩んでおります。そこもまた皆さんの意見を聞かせていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。江別市の特性は多くあると思っておりまして、そういったものも、いろいろお聞きしたいと考えたことから、えべつの未来づくりミーティングという取組を行いまして、さまざまな江別市の強み・弱みから始まって、少子高齢化が進む中でも、江別市がしっかりと取り組んでいくべき分野などについてお話をいただいたところでございます。その結果についても、今取りまとめ作業中でございますので、しっかりとお示しできるようにしたいと考えております。

(明神会長)

ほかに何かございませんでしょうか。

(井上委員)

スライド番号で言いますと20番、アンケート調査を補足する形で意見を募集されたということで、4月1日から30日までの短い1か月間で213件も意見があって、60%が10から20代の若手の方だったということは非常に興味深い取組だと思ったのですが、先ほどの紹介ですと、自然が多いとか、江別の感想が主体だったような気がいたします。そうではなく、江別市の将来方向に向けた提言や方策について、具体的なものがここで収集できたようでしたら、紹介いただきたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。市民参加の取組の一環として行ったものでございます。実際にアンケート調査は、10代と20代の回答者数が非常に少なかったということで、この取組を行ったところでございます。実際、今、えべつの未来づくりミーティングもそうですし、えべつの未来づくりプロジェクトも、どのような意見があったのかが分かるような資料づくりを行っております。取りまとめ次第、しっかりとお示ししたいと考えております。

(井上委員)

取りまとめ結果を公表される際には、感想ではなく、提言みたいなもの、この場で役に立つような、あるいは計画策定に役立つようなものがもしございましたら、その点に焦点を当てた形で報告いただけたらと思います。

(鎌田委員)

資料1の4ページ、えべつの未来づくりプロジェクトの中で、自由に意見を上げることのできるスペースを設置するとなっています。これは、具体的に何か決まっているのでしょうか。そして、このことを告知しないと、皆さんの意見が集まるのが難しくなるのではと思うので、その辺のところはどうでしょうか。

(事務局)

鎌田委員からお話いただいたのは資料1の中に記載があります、えべつの未来づくりプロジェクトのことかと思いますが、これは、資料2のスライド番号20の取組と同じ取組でございます。実際、えべつの未来づくりプロジェクトを行うときには、市のホームページをはじめ、市内公共施設、市内のJR各駅に大きなポスターを掲示させていただいて、周知を図ったところでございます。したがって、資料1に記載の、えべつの未来づくりプロジェクトは、既に実施済みの取組でございます。資料2のスライド番号20と同じ取組で、計213件のご意見をいただいたというものでございます。

(明神会長)

質問には、告知の必要性がありましたが、この点はどうでしょうか。

(事務局)

市民の皆様に対する周知のことかと思いますが、今ほど申し上げましたとおり、市のホームページなど、いろいろなところにチラシを配布して、ご意見をいただきたいというお話をさせていただいております。結果についても、市のホームページにも掲載しております。さらに今、市民参加の取組の取りまとめをしておりますので、結果が取りまとまった際には、ご案内できるかと思っております。

(明神会長)

いろいろな取組の中で、審議会に参考になるような提言であるとか、あるいは総括においても、課題が残ったとか、申し送り事項とか、何かございましたら積極的に開示をお願いしたいと思います。

(明神会長)

それでは、次の(3)について、事務局から説明をお願いします。

(3) 江別市の現状について

(事務局)

それでは、(3)の、江別市の現状についてご説明申し上げます。

資料3をご覧ください。この資料は、先ほどから何度か申し上げております、市民参加の取組である、えべつ未来づくりミーティングを行う際に、冒頭で活用していた資料であり、本日は、この資料を用いて、江別市の現状を説明したいと思います。なお、先ほども申し上げましたが、ミーティングにご参加いただいた委員もいらっしゃることから、極力分かりやすく、簡潔に説明したいと思いますので、よろしく願いいたします。

はじめに、1ページでは、江別市の地形や気候のほか、江別市の特徴や歩みなどについて記載しております。なお、左側のページに記載の2項目めとなりますが、最も多い積雪量は、これまで平成25年の167センチメートルでしたが、本年は、この記録を更新し、172センチメートルになったところです。

次に、2ページをご覧ください。2ページでは、産業に関するデータを掲載しており、産業別就業人口をはじめ、農業、小売業、医療、観光、教育関連のデータについて記載しております。

次に、3ページをご覧ください。このページでは、人口や世帯について掲載しております。左上の表は、5年に1度行われる国勢調査における人口と世帯の推移を表しております。人口は、平成17年をピークに減少しておりましたが、大規模宅地造成などにより、令和2年には、増加に転じたところであります。また、世帯数は年々増加していますが、1世帯当たりの人数が減少しています。これは、市内大学に通う大学生世代が多いことが考えられますが、主な要因は、65歳以上の高齢世帯において、単身世帯や夫婦のみ世帯が、大きく増加していることが挙げられます。これを示したグラフが下の左右の二つであります。次に、右半分の上二つのグラフは、年齢3区分別の人口の推移を表したものであります。一番上のグラフでは、オレンジ色の点線の65歳以上の人口が増加していることが分かります。これに対して、ゼロ歳から14歳までの年少人口と、15歳から64歳までの生産年齢人口は、平成12年をピークに減少し続けています。その下の横棒グラフをご覧ください。このグラフは、年齢3区分別人口の割合の推移を表したものです。今ほど、ご説明したとおり、オレンジ色で表した65歳以上の人口割合が急速に高まっていることが分かります。また、そのすぐ下には、石狩管内の各市及び北海道平均を載せています。

次に、4ページをご覧ください。人口動態についてであります。人口動態とは、上の紫色と茶色の折れ線グラフにあるとおり、転入と転出に伴う人口の動きである社会動態と、下の青色と赤色の折れ線グラフにあるとおり、出生と死亡に伴う人口の動きである自然動態に分かれています。

はじめに、上の社会動態では、平成28年から転入が転出を上回る社会増に転じており、特に、令和元年には、社会増が非常に大きくなっています。これに関連して、右側のグラフの上下二つのグラフをご覧ください。上が江別市からの転入元と転出先を自治体別に表した

ものであり、下は、江別市における転入・転出を年代別に表したものです。転入・転出ともに、札幌市が抜き出て多く、次いで、道外の転入・転出が多い状況です。また、下の年代別のグラフでは、特に目立つのは、20歳から24歳までの転出超過が非常に大きいほか、15歳から19歳までの転入超過が目立ちますが、これは市内4大学への入学時に市外から江別市に転入して、卒業時の就職を機に、札幌市などの市外や道外に転出している人数が多いことが主な要因であると考えます。なお、30代と40代では、転入超過となっていることから、江別市は、子育て世代に選ばれているものと推測しております。左上のグラフに戻りますが、下の自然動態を見てみると、平成15年以降、死亡が出生を上回る自然減が続いており、その差は年々大きくなっており、令和3年には、死亡者数が初めて1,400人を超えました。

次に、下のグラフをご覧くださいと思いますが、全国的に人口減少が進む中、江別市では、このような状況下でも、令和元年と令和2年に人口が増加しましたが、今後は、江別市も少子高齢化の大きな流れの中で、長期的には、少子高齢化が進み、本格的な人口減少が到来するのではないかと考えており、令和3年には、再び人口減少に転じたところであります。

次に、5ページをご覧ください。このページでは、子どもに関するデータを掲載しております。はじめに、左上の折れ線グラフをご覧ください。これは合計特殊出生率を石狩管内各市別に表したものでありますが、江別市が1.15と、最も低くなっております。これに関連して、右の二つの表をご覧くださいと思いますが、左の表は、今ほど申し上げた合計特殊出生率の順位を示したもので、右の表は、総人口に占めるゼロ歳から14歳までの年少人口の割合の順位を示したものです。ご覧いただきますと、分かりますとおり、合計特殊出生率は道内35市で最も低くなっている一方で、子どもの割合は道内で7番目に多い状況です。これは、単純に言いますと、子どもは生まれていないのに、子どもの人数は多いということを意味しています。少し矛盾しているように感じるかもしれませんが、紐解いてみますと、まず、合計特殊出生率が低い理由の一つには、江別市には、一般的に子どもを産む可能性が低い大学生がほかの自治体に比べて多いことが挙げられます。また、このような実態に加えて、子どもの人数が多いのは、市外で生まれた子どもが市内に多く転入していることが推測されます。子どもが単独で江別市に転入してくることはほぼありませんから、江別市の特徴として、子どもを産んだ後に、子育てのための住まいとして選ばれ、家を建てるなどして江別市に転入される数が多いものと推測しています。その関係データとして、下に円グラフをいくつか掲載していますが、これは子ども1人世帯から3人世帯まで、子どもが市内と市外で、どの程度の割合で生まれたかを示したものであります。ほかの自治体の状況も把握しようと試みましたが、現状では調査していないとのことであり、比較材料がないので、何とも言えないところではあります。市外で生まれた子どもの割合が多いことが分かります。このグラフからも、市外で子どもが生まれた後、江別市に転入してきている世帯が相当数いるものと考えております。

次に、6ページをご覧ください。市の財政状況を表したものでありますが、江別市の特徴を簡単に説明いたしますと、江別市は市税収入が他市と比べて少ないため、国からの地方交付税に頼っている状況です。また、市民1人当たりの借金他市と比べて少ないものの、貯金も少ない状況です。貯金がなければ、今後、老朽化する施設の建替えや、新たな事業を行うことが難しくなるため、江別市の財政状況は厳しいと言えます。

次に、7ページであります。「江別市の1日」と「江別市民の暮らし」を、参考としてグラフで表したものであります。

以上で、「江別市の現状について」の説明を終わります。

(明神会長)

ありがとうございました。事務局から説明いただきましたけれども、皆様から何か質問、ご意見ございませんでしょうか。

(竹田委員)

資料1に、2016年に転入者が転出者を上回ったとか、人口が増加したという記載がありました。資料3でも説明をいただきましたが、2016年あたりから転入者が増加して、人口が2019年に増加した要因について、ポイントとなるようなところあれば教えていただきたい。

(事務局)

先ほどのご説明でも少し触れましたが、最も大きな要因は、市内の大規模宅地造成によるものと考えております。江別市は、札幌市よりも土地が安く、江別市に家を構えやすいというのが、1番大きな理由かと思っております。最近は少し、江別市の地価が上がってきているようで、家を建てたいが少し高くてどうしようかと悩んでいる方も多くいらっしゃるようですが、資料3の4ページで申し上げますと、令和元年は、転入が6,059人ということで、転出との差が1,200人ぐらいございますので、この時期に大型宅地造成があり、家を建てて市外から転入してきた方が非常に多くなった年と考えております。

(竹田委員)

宅地造成が大きな原因ということですが、ちょうどそのころはこの資料によると第6次の総合計画の真っただ中だったので、私としては、第6次総合計画がピッタリとうまくはまっていたのかと思います。

宅地造成自体も、第6次総合計画に含まれていたのかもしれませんが、そういった、第6次総合計画の計画との関連で、良かった内容や、子育て支援の方々を呼び込めた要因が何かあれば教えていただきたいと思っております。

(事務局)

第6次総合計画では、既に人口減少が始まっているという方向で策定を進めており、5年後にも見直しを行っております。実際に大規模宅地造成自体は、市の計画というよりは、民間主導で進めておまして、そのような宅地造成もあり、人口も増えたことで、第6次総合計画で掲げていた将来推計人口、または高齢化率があったのですが、第6次総合計画で推計していた人口よりも多い結果となりました。また、子育て世代が多く転入してきていただいたこともあり、高齢化もそれほど進まず、第6次総合計画で推計していた高齢化率よりも低くなったところでございます。

民間主導で行われている大規模宅地造成は、今少し一息ついたということで、令和3年には人口が減少に転じたところでございます。また、少し地価も高くなっていることや、ウッドショックや物価高騰など、いろいろな要因があって、人口が増加に転ずるような流れには、今のところはないのではと思っております。

(竹田委員)

民間の方でも、江別市に若い世代の人口が増加したということで、そこを一つの契機、ターニングポイントと捉え、そこに来た家族の方々に、とても良い市だと認識していただき、それを行政が後押しして支援することを強めていけば、今は転入が減っていますが、そこを盛り上げていくようなものを、是非、第7次総合計画に盛り込んでいければと考えております。

(小野秀司委員)

今のお話に関連してですが、ざっくり言うと、民間の宅地開発で、札幌市に比べて相対的に地価が安く、住宅が安く手に入るので来ている。今後はそれが見込めないという話ですが、一方で、市の独自の住宅政策があります。子育て世代に、できるだけ江別に住んでいただくためにお金も出したりしていますが、そういう政策についてはどのように評価されているのかお伺いしたいのと、やはり民間任せだと、市独自の政策ではないので、そこをどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

もう一つ、2ページについて、就業人口の話があり、基本的には、第一次、第二次、第三次産業と分かれています。これを拝見すると、あくまで江別市民で働いている人なのか、それとも、江別に事業所があって、そこで働いている人の、いずれでしょうか。

具体的に言うと、江別市の職員でも、札幌市から通ってくる人がいたりします。その辺の区分けはできているのでしょうか。この表はどういう捉え方なのか。例えば、江別市内に職場があって、札幌市や南幌町から通っている人の数値を把握しているのか。その点について伺えればと思います。

(事務局)

人口の関係でございしますが、江別市も、民間主導の大規模宅地造成だけに頼っているわけではなく、住宅取得支援事業や、子育て応援のまちという基本理念に基づいた各種事業を行いながら、また、江別市で有名なところといえば、「ぼこあぼこ」という、イオンタウン江別の中に、子どもが遊べる室内の遊び場を創設したところとございまして、そういった取組を行っているところとございまして、今後については、人口が減少していくことはもう明らかですので、実際に大規模宅地造成を期待できるかということ、なかなか難しいところもあろうかと思えます。今後は、新たな取組になっていくと思えますが、住み替えなど、そのような取組にシフトしていくというのも、一つの考え方ではないかと思っておりますが、実際、これから第7次総合計画の骨子を全庁的に作成していく中で、しっかりと議論してお示しできればと考えております。また、A3判の資料の「江別市の現状」についてですが、国勢調査結果によるもので、江別市民の産業別就業人口構成比を示しています。

(明神会長)

市民の、ということでしたら、江別に職場があっても、市外に職場があっても、計上されているということですか。

(事務局)

そうです。例えば、仮に、私が札幌市に住んでいて、江別市役所に勤めていると、それは札幌市のほうで集計されますので、札幌市の方でカウントされることとなります。

(明神会長)

いずれにせよ、職場がどこにあらうが、住んでいる方が何をどういう職業に就いているかということですか。ほかに皆さん、ありませんか。

(井上委員)

大変詳細な資料を作成いただいて感謝申し上げます。ご苦労されたと思いますが、コメントさせていただきます。今回の資料は、他市町村との比較も結構ございました。ただ、その全てが北海道内の市町村ということでした。もちろん周辺市町村はライバル関係にもありますから、周辺市町村と比較することも重要なことでもありますけども、先ほどの齋藤委員から、江別市の特性という話がございました。そうした特性を明らかにする上において、やはり全国を見渡して、江別市と同じような立地条件、産業構造、そういった特性を持つようなとこ

ろと比較し、先ほどSWOT分析の話も出しましたが、強みや弱みを分析していく必要もあるのではないかと思います。

今後、こういった資料をお示しいただく際には、大変かと思うのですが、全国を見渡した上で、江別市と類似したような市町村を取り上げた上での比較というのも重要になるかと思いました。具体的には、関東の政令指定都市、平成の大合併で政令指定都市になったところ、基幹産業が停滞する北九州市を除外し、北から言えば仙台、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡市といったような政令指定都市に隣接または近くにある市町村をピックアップして、人口が増加または横ばいの市町村で、かつ、農業をはじめ、第一次産業も基幹産業になっているようなところを取り上げて比較していくということも重要ではないかと。新たな勉強になるかもしれないと思いますし、江別市の特性が浮き彫りになることが期待できますので、もし余裕がございましたら大変な作業になるかもしれませんが、そうした道外の市町村、似たような、構造を持つような市町村との比較もお願いしたいと感じました。意見として申し上げます。

(事務局)

北海道内によらず、背景が似ている自治体も多くあろうかと思いますので、少しその辺も調べながらお示しできるデータをご紹介します、ご報告できればと考えております。

(星委員)

今、似たような自治体との比較の話がありましたが、江別市が、子どもたちが転入してくる、子育てしやすいまちということで関わっているのであれば、未就学児の医療費が無料になるとか、子育てに関する集計もほしいと思いました。あと、共働きの家庭の子どもを預かる学童保育は、江別市は有料だと思いますが、札幌市では無料のところもあると聞いたことがあります。子育てをしやすいということであれば、その辺がどうなのかと思います。江別市と同じような感じの市町村の資料も、もしいただければと思いました。大変申し訳ありませんが、よろしくをお願いします。

(事務局)

先ほども申し上げましたとおり、江別市は子育て応援のまちという基本理念を掲げて市政運営を行っております。実際は子どもに対する施策、取組、事業と様々ありますが、中でも、よく聞くのは、子どもの医療費で、小学何年生まで無料、中学生まで無料、いろいろな取組がございまして、最近、函館市が高校生までも医療費を無料化するなどの政策も掲げられたところでございます。実際的には国の法令に定めた医療費の割合で運営を行っていく必要がある医療保険ですので、なかなか厳しい面もありますし、各自治体の財政事情も十分考えられます。ただ、実際にそういった取組を行っている自治体は多くあると思いますので、先ほど井上委員からお話いただいたような、同様の環境を背景にある自治体がどのような取組、子育て施策を行っているかについて、もう少し研究してまいりたいと思います。

(小野秀司委員)

私も他の政令指定都市と周辺市町村との関係の資料は、江別市が札幌市のベッドタウンでもあるので非常に参考になる情報があると期待しています。広域圏という考え方もあります。そういった観点から政令指定都市の周辺自治体と対比できるようなものがあれば役に立つと考えております。江別市は農業の比重が高く、町村さんを含め6次産業化に農業関係者が一生懸命取り組んでいらっしゃいます。他の農業が盛んな自治体での滞在型の観光施設など、こんな面白いところもある、こんな展開もあるというヒントがいろいろあると思いますので、お時間が非常に限られた中で大変だと思いますけれども、その辺の調査にも力を入れてほし

いと思います。

(事務局)

ありがとうございます。努めてまいりたいと思っております。

(小野豊勝委員)

私は、老後の健康維持を支える介護予防サポーターをやっていた関係で、えべつの未来づくりミーティングに出させていただきます。それと関連してですが、皆さんの地域にも、自治会というものがあると思います。会員には若い人も、年寄りもいますが、その運営自体は、仕事を終えた65歳以上の人たちが運営していることが多いです。活動自体も、どちらかと言えば、年寄りの人たちが関係する行事も多いということで、私も自治会の役員をやっていました。そこで分かったのですが、皆さん、今住んでいるところは、終の棲家として住んでいるわけです。最初は土地が安いからここに来たということはあるにしても、住んでみたら住みやすく、終の棲家としたいと思っている人たちがほとんどなのです。ですから、ある意味、今のまちの計画、将来のあり方における、高齢者に関する問題は、自治会や町内会の人たちの声を聞いて、こうであるべき、今こうだから、このほうが良いなどの話は進んでいると思います。個人的にも、幾らかは意見を持っています。例えば、第6次総合計画の策定時などで、自治会など、地域の団体の話を聞く機会などはありましたか。

(事務局)

第6次総合計画を策定する際にも、えべつ未来市民会議といたしまして、40人規模の会議を設置してお聞きした中にご参画いただいた方もいらっしゃいますし、プラスして、各界各層との意見交換も第6次総合計画では行っておりまして、その中でも、自治会の役員の皆様にお話をお聞きしたところでございます。ただ時間も限られておりましたので、なかなか長い時間をかけてご意見をお聞きすることはできなかったという反省も踏まえまして、今回は、新型コロナウイルスの影響もございましたので、少人数から成るグループを複数設定した、えべつの未来づくりミーティングを行ったところでございます。自治会の皆様からも、江別・野幌・大麻それぞれの自治会連絡協議会の皆様にお集まりいただいて、この中では、内海委員にご協力、ご参加をいただいて、さまざまなご意見をいただいたというところでございます。

(齋藤委員)

今、皆様のお話を聞かせていただいて、終の棲家として住みやすいまちなのは、とても素晴らしいことだと思っております。僕の世代としては、僕の周りにも札幌市から引っ越してくる方が多数おります。その中では、地価が安いから江別市を選んだという理由が1番だというのが実感としてあります。それは、市の認識と同じで、ずれがなくてよかったと思っておりますし、我々の世代が、このまま長く、より良いまちだと思い、住んでいけるような計画づくりがとても大切なのだらうと思っておりました。先ほども、江別市の特性の質問をさせていただきましたが、この特性は現在の特性でもありますし、今後どうしていきたいかということも含めてだと思っております。やはり、江別市の財政状況は分かっておりますので、その中で、お年寄りの方も、子育て世代も、学生も、全て大事だと思っておりますが、どこに特化していくか、江別としてこうありたいという姿も、市からぜひとも見せていただきたいと思っております。我々も、それぞれの立場で意見があると思っておりますし、市からもこのようにしていきたいというものがあってもいいと思っております。

(成田委員)

7ページ目にある「数字で見る江別の市民の暮らし」は見ていてとても楽しいのですけれ

ども、少し大変だと思いますが、これを他の市町村と比較するデータがあると面白いと思います。意外と見えづらい江別市のストロングポイントやウイークポイントが見えてくると思いました。図書蔵書数が多ければ図書環境整備が整っているとか、犯罪発生件数が少なければ、安心安全に暮らせるまちだなど、意外とここは江別市が強いじゃないかというところが出てくると思います。他市町村と比較するデータをもらうのはなかなか難しいと思いますが、できる限りでそういうデータもあると、どこを伸ばせばいいのかとか、もっとこれを強化したほうがいいのではないかというものが出てくると思いました。

(事務局)

このページは、えべつの未来づくりミーティングの中でも、面白いという評価をいただいたところでございます。類似自治体全て調べるとなると、結構な労力もかかってしまいますが、少しかいつまんで、また簡便な方法で、取得できるものについて取得してお示しできればと考えております。

(春日委員)

まず、この資料3自体をえべつの未来づくりミーティングで使われた資料ということですが、一つ、農業の点から少し気になるところがあるのですけれども、2016年度経済センサスで、農林漁業の従業員数が449人で、内訳を見ると、江別市農業経営体数は335件という話で、私が農協で捉えている数と、やや差異はありますが、これぐらいだと思います。

ただ、農業に携わるのは、家族で携わっているのがほとんどです。仮に夫婦2人、みんながみんな夫婦ではないでしょうが、夫婦やおじいちゃん、おばあちゃんたちが働いていることを考えると、単純に経営体数の2倍から3倍ぐらいは農業従事者がいると思います。

そう考えると、従業員数449人というところだけを見てしまうと、江別市で働いている農林漁業者は449人しかいないという捉え方になってしまうことが少し気がかりな点です。非常に多くいるパートさんも含めれば、いわゆる第一次産業に関わっている人間がより多くいるはずですが、これだけ見ると非常に少ない人数であり、停滞しているように誤解が生まれるのではないかと、少し心配です。

既に、これを使ってミーティングが行われたということなので、今からどうしろとは言えませんけれども、このように示したということは根拠になるデータがあると思いますが、私の認識からすると、何か差異があるのではないかと思います。

(事務局)

基本的には、国の調査に基づく数値を使っておりますが、この表記自体に少し、勘違いというか、誤解を生んでしまうというようなこともあるというご意見でしたので、少し精査したいと思います。

(春日委員)

農業は、全て法人化しているわけではなく、家族労働による個人事業主の形態が非常に多いので、そういったところを踏まえると、就業人口は計算しづらいのかもしれませんが、より多くいるはずだと思います。そのほとんどは江別市に住んでいる人間ですので、そういった意味では、就業人口は非常に多くなるのではないかと思います。江別市にそれだけ、根を張って貢献しているということもあるので、そこはきちんと示していただきたいというのが、私たち農業者としての意見です。

(井上委員)

そもそも、その参考にした統計が違う点が問題で、それがこうした見方になってしまっているのではないかと思います。赤い点線で囲っているのは経済センサスで、緑で囲っている

のは、農林業センサスです。それぞれの従事者の捉え方が違うので、こうした数値の違いが出てきたと思います。ですから、今のご指摘を踏まえるのであれば、緑で囲ったところの農林業センサスのデータ、その中に農業従事者、それから、雇用者、それから農家人口というデータがございます。その同じ統計内での数値を出せば、今、ご指摘いただいた点の現状は、より鮮明に現実に近い形で出せたのではと思います。ですから、それぞれ統計を用いる際にはそうした点もご配慮いただきながら、お示しすれば誤解を招くようなことも少しは解消されるのではと思います。

(明神会長)

ほかにありませんか。

(町村委員)

千歳市との比較に目が行ってしまうのですが、合計特殊出生率のところですが、5ページ目ですが、人口の年齢構成に関しましては、総人口は江別市が12万人弱で千歳市が10万人弱だろうと思います。ただ、人口構成においては、生産年齢人口はかなり千歳市と江別市の間で差があるような状況だと思えます。3ページのグラフから見てとれるように思えます。恵庭市も若干、江別市よりは千歳市に近い形なのかなと、見えなくもないのですが、ここの部分がどう作用しているのか分かりませんが、僕は千歳市の合計特殊出生率が1.52で江別市が1.15であるのは、結構な差があると正直感じるのですけれども、行政として何か分析をされているのでしょうか。

(事務局)

明確に調査はしていませんが、推測はしてありまして、千歳市、恵庭市については、自衛隊があるというのが大きいと思っております。若い世代が循環しており、千歳市、恵庭市では、比較的若い世代、子育て世代が多い状況でございますし、また、千歳市には空港もあるので、若い従事者の方々が多くいらっしゃることも要因だと考えております。基本的には、千歳市、恵庭市は、自衛隊があることが主な要因ではないかと考えております。

(町村委員)

私も一度調べたことがあるのですが、千歳市の駐屯地の人口は大体1万人ぐらいだったと思います。その中での子育て世代が、この合計特殊出生率の差にどれぐらい影響してくるのかという部分は、もしかしたら、先ほどからいろいろとご意見が出ている、行政が対応する施策の違いが反映しているかもしれませんので、可能であるならば、いろいろと調べられたらどうかと思いました。

(明神会長)

それでは、各委員からのご指摘の調査等についてお願いしたいと思います。

私の考えとして、大学生の入学と卒業に伴って、転入転出があるということですが、大学生の起業、スタートアップ支援など、何らかの雇用を江別の中につくって、卒業生が江別に留まり、市外からも転入していただくなど、そういうことも含めて、何らかの方策も必要だと思っております。今ほど、千歳市、恵庭市との比較ということで、自衛隊という話ありましたが、要するに子どもを産む世代がとどまるというようなことが大事だと思いますので、大学生にも焦点を当てると、学生がそのまま江別で起業したり、既存の事業者が大学生向けの仕事をつくらしたりするなど、あるいは、就職先を見つける場を設けることも一つの施策だと思います。

ほかに何かございますか。この辺で終えたいと思いますが、いかがですか。それでは、次第8となりますが、今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

8 今後のスケジュールについて

(事務局)

今後のスケジュールについて、ご説明いたします。

今後のスケジュールについての資料をご覧ください。この資料は、行政審議会における今後のスケジュールの予定をお示しした資料であります。行政審議会は、本日、第1回目となりますが、以降、概ね月1回の開催を予定しております。本日は、主に、委嘱状の交付をはじめ、会長及び副会長の選出を行ったほか、総合計画の概要などの資料説明を行いました。なお、9月下旬に開催予定の第2回目につきましても、報告事項の議事を予定しており、市がこれまで行ってきた市民参加の取組のほか、本年5月に行った市の将来人口推計の結果について報告することを予定しております。そして、第3回目から具体的な審議をいただくことを予定しております。

第7次総合計画は、現在、全部局において作業を行っているところでありますので、段階的に案をお示ししながら、ご審議いただくことを想定しております。したがって、第3回目の審議では、まちづくりの基本理念や将来都市像について審議いただくほか、第4回目の審議会では、現行の第6次総合計画の総括をお示ししながら、次期の総合計画のまちづくり政策について審議いただくことを想定しております。

なお、まちづくり政策は、市の取組の主要な分野とその取組の方向性を示したものであり、少し深い議論が必要となる可能性があることから、行政審議会での協議事項となりますが、例えば、分科会を設置して、分科会ごとに審議を行うことについても想定しております。その後、令和5年においても、引き続き、まちづくり政策についての審議をいただくほか、未来構想の中から、重点的かつ集中的に行う取組を示した未来戦略についても、その方向性などについて審議いただくことを予定しております。

最終的には、遅くとも令和5年7月中には、計画骨子に対する答申を取りまとめ、市長に答申書を手渡していただくことを予定しております。

以上、今後のスケジュールについてご説明申し上げましたが、事務局が想定する留意事項について申し上げますと、1点目に、新型コロナウイルス感染症の影響により、スケジュールに変更が生じうること、2点目は、来年4月に統一地方選挙が予定されていることから、選挙の結果によって、総合計画の内容に変更が生じる可能性があることが考えられますが、いずれも十分に状況の把握に努め、適宜、皆様にご報告とご相談を行いながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(明神会長)

ありがとうございます。3回目から審議がずっとありますが、これは、報告というものに加えて、基本理念とか、そういった、事務局側の案が出されてそれに対する審議ということでしょうか。

(事務局)

審議を行う際には、必ず市の考え方ということで、案をご説明申し上げた後、審議を行っていただくこととなります。

(明神会長)

本日と次回は事務局からの説明で、3回目から将来都市像、基本理念の審議を行う時も、全て事務局から案が提示されるということです。その後に分野ごとに分かれたまちづくり政策を審議して、最終的に戦略部分を審議するという予定ということでした。予定については、

先ほどのご説明どおり、新型コロナウイルス感染症であるとか、市長選挙のお話がありまして、変更の要因がありますけれども、可能な限りスケジュールどおりに進みますように、来年7月までという非常に長丁場になりますけれども、皆様のご協力を、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、次第9のその他で、事務局から何かござひますか。

9 その他

(事務局)

次回の、第2回行政審議会ではござひますが、現在のところ、9月27日火曜日、時間は本日と同じ、午後6時から開催したいと考えてござひます。後日、出欠の連絡依頼を申し上げたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

(明神会長)

ただいまの説明について、何かご質問ござひますか。(なし)

10 閉会

(明神会長)

それでは、本日予定してました議事を全て終了いたしました。

以上をもちまして、第1回の江別市行政審議会を閉会いたします。皆様どうもお疲れ様でした。